

2024年度(令和6年度)入学者のために

副専攻 履修の手引き



兵庫県立大学 高等教育推進機構

目 次

副専攻について.....	1
--------------	---

【副専攻】

1. 地域創生リーダー教育プログラム (RREP)	2
2. グローバルリーダー教育プログラム (GLEP)	8
3. 防災リーダー教育プログラム.....	12

兵庫県立大学副専攻規程.....	16
------------------	----

副専攻について

大学では、主専攻（所属学部の専攻）以外にも学びの機会を拡げるため、副専攻を用意しています。

いずれのプログラムも、課題解決やフィールドワーク、体験プログラムを取り入れ、学生みなさんが、主体的に学べるような科目となっています。また、プログラムごとに定めた修了要件を満たすと、修了証書等が交付されます。

未来の自分への投資と考え意欲的に取り組んでください。大きく飛躍されることを期待しています。

本冊子は、副専攻規程（P16、17）第2条第4項及び第3条について定めるものです。

■ プログラムの選び方

兵庫県やまちづくりに関心がある。

地域創生リーダー教育プログラム

英語や海外に関心がある。

グローバルリーダー教育プログラム

防災や復興支援に関心がある。

防災リーダー教育プログラム

※副専攻は、重複して履修することはできません。

「ひょうご学志」・「コミュニティ・プランナー アソシエイト」
～学部・大学を超えて、地域に入り、地域の方とともに、地域で学ぶ～

1 プログラムの目的・ねらい

地域コミュニティが抱える諸問題に対する問題意識を共有し、地域の風土、歴史文化、地域共有の価値観などを踏まえ、一分野のみならず、関連する領域にも深い理解を示し、地域が求めるコミュニティづくりに貢献し、持続可能な地域再生に向けて主体的に取り組む力を育成します。修得できる力は下記の4つです。

① 地域に存在する多様な地域課題の内容、背景などを体系的に分析する
調査分析力

② 地域課題の解決に向けての方策を計画的に実践していく
事業マネジメント力

③ 関係者と信頼関係を構築し、地域課題の解決方策を地域とともに推進していく
協働力

④ 地域課題の解決に向けて行った実践結果に基づき、発展させた構想を提案する
構想提案力

実践的知識とスキル・各学部の専門性を活かして、公共機関のまちづくり分野、福祉、医療、商業や農業など、これからの社会の広い分野に求められる専門力とともに、コミュニケーション能力、チームの一員として活動していく力など「社会人基礎力」の修得につながります。

2 求める学生像

- ・ 地域を知りたい。
- ・ 地域と関わりながら実践的に学びたい。
- ・ 地域を元気にするために行動したい。

上記の思いを持ち、主体的に学び、主体的に行動する者。プログラムでの学びを自己のものとし、様々な分野で活動したいと考える者。



3 プログラムの概要

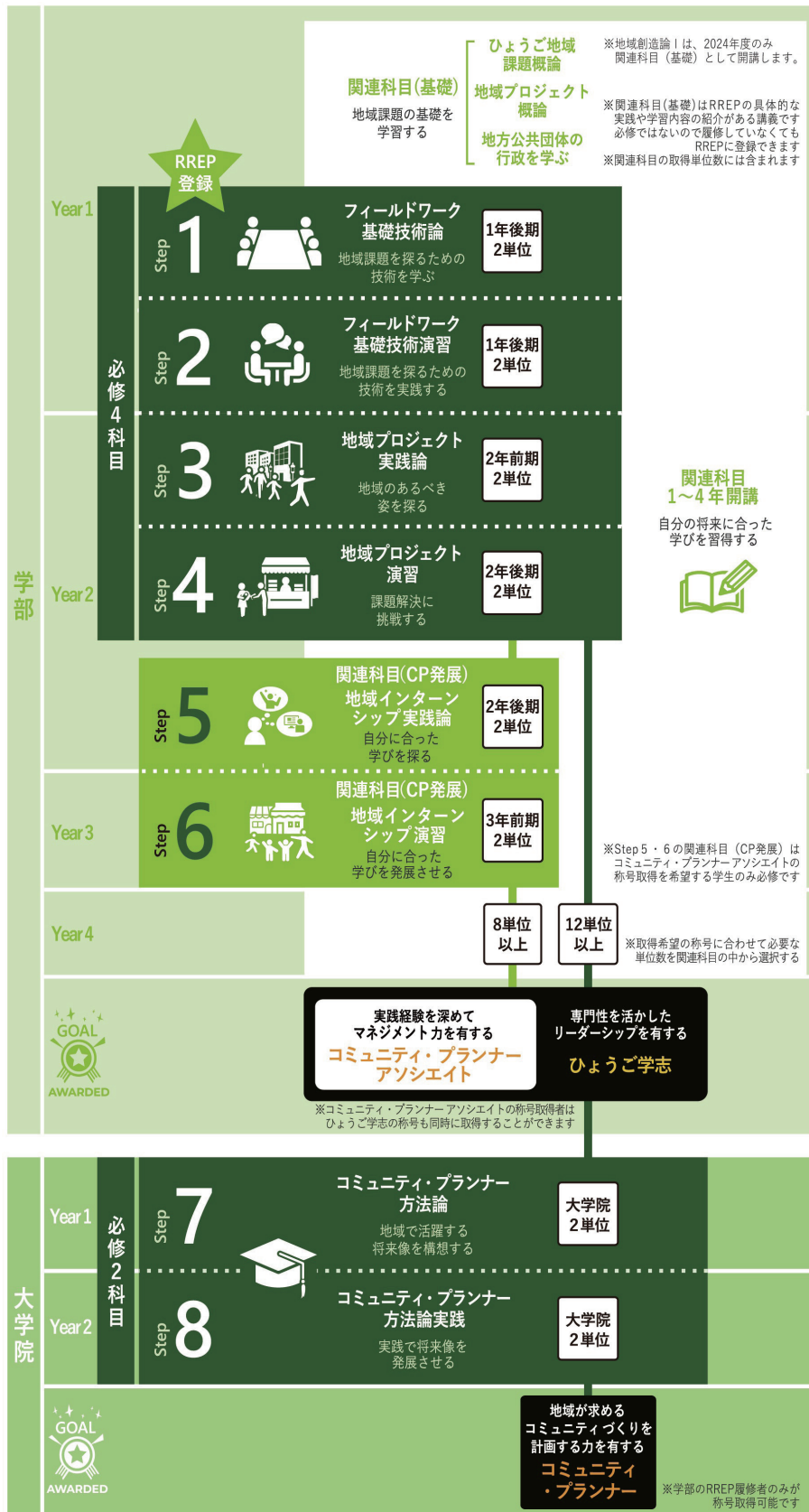
本プログラムは、地域で実践を行う実践教育が中心となり、本プログラムを修了すると、「ひょうご学志」または「コミュニティ・プランナー アソシエイト」の称号もしくは両称号を卒業時に得ることができます。なお、「コミュニティ・プランナー アソシエイト」の称号は、連携先の宮城大学学長および本学学長との連名により付与されます。

【本プログラムの魅力】

- ① 「地域の方」とともに地域で考え、地域課題に取り組む。
- ② 学部を越えた学生チームで、チームづくりを学ぶ。
- ③ 多様な学部・研究科の教員チームが支える。
- ④ 連携先である宮城大学との大学間交流授業を行う。



4 カリキュラム、開講科目等



本プログラムは、プログラム必修科目を4科目8単位、関連科目を12単位以上取得することにより修了することができます。

「ひょうご学志」または「コミュニティ・プランナーアソシエイト」それぞれの称号の修了要件は以下のとおりです。

ひょうご学志

地域課題を解決するために、地域に変化を生み出す方法を学び、ビジネスの現場やNPOのスタッフとして、リーダーシップを発揮できる力を持つ。

修了要件：

プログラム必修科目

4科目 8単位

関連科目

12単位

(CP発展以外)

合計 20 単位以上

コミュニティ・プランナーアソシエイト

地域課題の複雑さに対処するために、制度・仕組みづくりなどを学び、行政や関係機関でさまざまな取り組みをマネジメントできる力を持つ。

修了要件：

プログラム必修科目

4科目 8単位

関連科目

2科目 4単位

(CP発展)

関連科目

8単位

合計 20 単位以上

《プログラム開講科目》

・ フィールドワーク基礎技術論



地域への理解を深めるための事前調査手法やインタビューの方法等、模擬演習を通じてフィールドワークの基礎理論を学習します。

・ フィールドワーク基礎技術演習



インタビュー調査やアンケート調査、ワークショップ等を実践し、フィールドワークの基礎技術を現場で実践しながら習得します。

・ 地域プロジェクト実践論



地域を創生する人材として基礎的な態度と知識、技能を習得します。他学部生とチームを組み、対象地域の課題解決につながるプロジェクトを企画します。

・ 地域プロジェクト演習



地域プロジェクト実践論で企画したプロジェクトを他学部生とのチームで実践し、その成果と課題を踏まえ、新たな提案を行います。

《 関連科目（CP発展） 》

・ 地域インターンシップ実践論

・ 地域インターンシップ演習

各学生の将来像にあった地域で活躍する可能性を見出すために、地域プロジェクト演習等の最終提案に挑戦するインターンシップを実施します。



【地域プロジェクト演習で実践したプロジェクト】

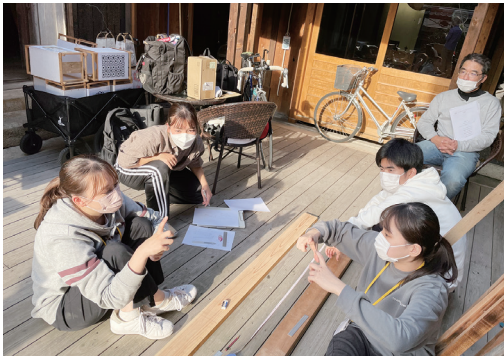
地域プロジェクト実践論・地域プロジェクト演習では、実際に地域の課題解決につながるプロジェクトを企画・実践します。学部混合の数名からなるチームで、地域団体や市役所などの行政機関と連携し、活動します。



西脇市

コミュニティビジネス・観光・食の魅力発信・子育て世代向けの健康啓発・地域連携の拠点の創出・移住定住推進の6つのテーマで活動し、地域プロジェクトを実施しました。

連携先：いずみ会、西脇工業高校、西脇市、兵庫 SPO 支援センター、まちづくり協議会 他



たつの市

「醤油蔵のある城下町を活かした地域課題解決」「城下町の教科書づくりによる移住定住の促進」「古材を活かした魅力発信とコミュニティづくり」をテーマに地域プロジェクトを実施しました。

連携先：特定非営利活動法人ひとまちあーと たつの市空き家相談センター 他



三田市

ニュータウンと農村部が隣接する地域で、公共施設を活用した地域活性化をテーマに活動しました。博物館や公園、図書館などと連携し、それぞれの地域課題解決を目指した9つのプロジェクトを実施しました。

連携先：兵庫県立人と自然の博物館 兵庫県立有馬富士公園 他



姫路市

姫路市「城の西エリア」の関係団体と連携し、ゴミを出さない地域イベントの共催や、公園の剪定材をゴミにしない取り組みなど、地域におけるSDGs達成に寄与する活動に挑戦しました。

連携先：姫路市、NPO法人スローソサエティ、リビングソイル研究所 他

地域創生リーダー教育プログラム 必修科目

	科目名	年次	東	西	集中
RREP	フィールドワーク基礎技術論	1			○
専門科目	フィールドワーク基礎技術演習	1			○

	科目名	年次	東	西	集中
RREP	地域プロジェクト実践論	2			○
専門科目	地域プロジェクト演習	2			○

地域創生リーダー教育プログラム 関連科目

<関連科目（基礎）>

	科目名	年次	東	西	集中
全学	ひょうご地域課題概論	1-4	○	○	
	地域プロジェクト概論	1-4	○	○	
	地方公共団体の行政を学ぶ	1-4		○	
	地域創造論Ⅰ	1-4	○※1		

プログラム修了要件：
必修科目 4 科目 8 単位 + 関連科目 12 単位以上

※「ひょうご学志」の称号：
4科目8単位+関連科目を12単位以上。
※「コミュニティ・プランナーアソシエイト」の称号：
必修科目を4科目8単位+CP発展科目を2科目4単位+関連科目を8単位以上。
※共に要件を満たせば両称号の取得が可能です。

<関連科目（CP発展）>

	科目名	年次	東	西	集中
RREP	地域インターンシップ実践論	2			○
専門科目	地域インターンシップ演習	3			○

<関連科目群>

	科目名	年次	東	西	集中
全学	地域資源マネジメント概論	1-4	○	○	
	地域社会と健康	1-4	○	○※2	
	緑景観マネジメント論	1-4	○	○	
	地域社会とマネジメント	1-4	○※3	○※3	
	地域創造論Ⅱ	1-4			○※4
	地域資源の保全と活用	1-4		○	
	化学と環境技術	1-4		○	
	兵庫のものづくり	1-4		○	
	現代都市社会とまちづくり	1-4		○	
	播磨学	1-4			○※5
	共生生物学	1-4			○
	兵庫の里山	1-4			○
	ジオパークと地域	1-4			○
	地域資源フィールドワーク（田園）	3-4			○
	地域資源フィールドワーク（ジオ）	3-4			○
国際商経 経済学 ・ 経営学 コース	マーケティング論	1-4	○		
	経営戦略論	2-4	○		
	行動経済学	2-4	○		
	開発経済学	2-4	○		
	地域経済学	2-4	○		
	公共経済学	2-4	○		
	社会保障政策論	2-4	○		
	地域資源論	2-4	○		
	地域産業構造論	2-4	○		
	公共マネジメント論	2-4	○		
	地域経営論	2-4	○		
	経済地理学	2-4	○		
	地域スポーツ推進論Ⅰ	3-4	○		
	地域スポーツ推進論Ⅱ	3-4	○		
	イノベーション論	2-4	○		
	統計的意思決定論	2-4	○		
国際商経 G B C	Japanese Society	1-4	○		
	Introduction to Regional Project	1-4	○		
	Introduction to Community Planner	1-4	○		
	Strategic Management	2-4	○		
	Health and Welfare	2-4	○		
	Community Business	2-4	○		
	Economic Development	2-4	○		
	Public Economics	2-4	○		
	Economic Geography	2-4	○		

	科目名	年次	東	西	集中
社会情報	社会データ分析	3-4	□		
	政策データ分析	3-4	□		
	社会調査法	3-4	□		
	マーケティング論	3-4	□		
	地理情報システム	3-4	□		
	経営戦略論	3-4	□		
看護	コミュニティヘルスケア実習	1-4	□		
	老年看護概論	1-4	□		
	老年生活看護論	2-4	□		
	在宅看護論	2-4	□		
	在宅看護活動論	2-4	□		
	コミュニティ・公衆衛生看護概論	2-4	□		
	コミュニティ・公衆衛生看護活動論	3-4	□		
	コミュニティ・公衆衛生看護技術演習	3-4	□		
	生涯広域健康看護実習（地域）	3-4	□		
	生涯広域健康看護実習（在宅）	3-4	□		
環境人間	災害情報論	2-4		○	
	健康福祉学	2-4		○	
	子ども環境論	2-4		○	
	企画デザイン	2-4		○	
	社会経済地理学	2-4		○	
	地方自治論	2-4		○	
	建築計画論Ⅰ	2-4		○	
	まちづくり論	2-4		○	
	地域コミュニティ論	2-4		○	
	地域コミュニケーション論	2-4		○	
	都市計画	2-4		○	
	農村計画	3-4		○	
	緑の都市づくり計画とデザイン	3-4		○	
工	工業経済学	2-4		○	
	環境安全工学	2-4		○	
	地球システム科学	2		○	
理	生態学と生物多様性の保全	3-4		○	

※1 2025年度以降は集中講義（東地区のみ）の開講となる

※2 西地区は隔年開講。2024年度は非開講。

※3 隔年開講。2024年度は開講。

※4 東地区のみ開講

※5 西地区のみ開講

※□ 所属学部の子生のみ受講可

※関連科目のうち、他学部の開講科目を履修する場合は、学部ごとに履修要件が異なりますので、詳しくは各学部の「履修の手引き」を確認してください。

5 履修方法、問合せ先

- (1) 定員 50名程度（応募者多数の場合は選抜を行います）
- (2) 募集時期 7 - 8 月（結果発表 9 月）
- (3) 応募方法 各学部掲示板に詳細を掲示
- (4) その他

①地域創生リーダー教育プログラムへの登録方法やプログラム開講科目の魅力は、関連科目（基礎）の講義内で詳しく説明します。1 年前期に開講する関連科目（基礎）である「ひょうご地域課題概論」、「地域プロジェクト概論」、「地方公共団体の行政を学ぶ」、「地域創造論Ⅰ」を履修してください。特に、「ひょうご地域課題概論」では、履修した先輩たちの体験談を聞くことができます。

②関連科目のうち、他学部の開講科目を履修する場合は、学部ごとに履修要件が異なりますので、詳しくは各学部の「履修の手引き」を確認してください。

③プログラム開講科目は、全日程出席が前提です。

■問い合わせ先

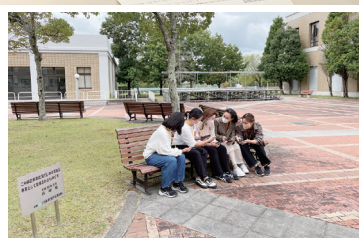
地域創生リーダー教育プログラム推進室（RREP 推進室）
〒 670-0092 姫路市新在家本町 1 丁目 1-12
TEL：079-296-1502 Email：rrep@hq.u-hyogo.ac.jp



ホームページでさらに詳しく
<https://u-hyogo-rrep.net/>



最新の活動情報はSNSで
@rrep_hyogo



1 プログラムの目的・ねらい

グローバルリーダー教育プログラム（Global Leader Education Program、以下 GLEP とする）は、グローバルな視点と公共マインドを持ち、グローバルリーダーのための素養・能力を身につけ、専門知識とその応用力を発揮して、国際社会や地域社会において主体的な役割を担う人材の育成を目指します。

2 求める学生像

専門知識に加え、実践的英語力や第二外国語運用能力、専門分野における国際発信力、グローバル教養、課題発見・解決力等を身につけ、社会に貢献したいという志を有する学生を求めます。一定の英語力は必要ですが、自ら進んで学ぶという学修に対する意欲や将来実現したいことに対する行動力、リーダーシップを重視します。

3 プログラムの概要

(1) プログラムの構成

GLEP は、語学力や対話力を養成する国際コミュニケーション科目群とリーダーシップやグローバル教養、課題発見・解決力を養成するリーダーシップ科目群で構成されます。各科目群は、全学共通科目、各学部の専門科目、グローバルリーダー教育部門提供科目を組み合わせた体系的なプログラムです。

実施科目にはネイティブ講師が全て英語で実施する少人数編成の英語演習や、グローバル企業や国際機関での豊富な経験を持つ講師による講義、グローバル化の進行を現場から学ぶ国内フィールドワークがあります。海外フィールドワークでは企業訪問、現地大学での特別講義や学生交流、フィールドワーク等を実施します。

また、2 年次以降は、英語力や第二外国語運用能力、専門分野における国際発信力を高める講義科目と併せて、グローバルなプロジェクトを企画・実施し、国際社会で活躍するためのリーダーシップを身につける演習科目が用意されています。その他、留学生との交流事業や他学部生と交流する GLEP 合宿を学生自身が企画・運営するなど、課外活動も充実しています。



(2) プログラムの特色

主体的に考える力や行動する力、チームで協働する力などを磨くため、体験・実践活動を重視した全学部共通のプログラムを実施します。

① 海外フィールドワーク：必修

- ・ 実施科目：「グローバルプロジェクト入門（海外）」
- ・ 1 年次 2-3 月や 2 年次 8-9 月に 1-2 週間で実施する海外研修
- ・ 対象国：アメリカ、オーストラリア、中国、ベトナム、イギリス、ルーマニア、台湾、タイなど、年度ごとに異なる。
- ・ 学生交流やフィールドワークを通じた語学力、異文化理解力、課題発見・解決力の向上

② 国内フィールドワーク：必修

- ・ 実施科目：「グローバル社会を学ぶ」「日本の思想と文化を学ぶ」「先端科学を学ぶ」
- ・ 週末や休暇期間中に集中講義形式で実施する国内フィールドワーク
- ・ 県内企業の取り組みやNPOによる在住外国人支援などの現場から学ぶ。

③ グローバルプロジェクト演習：必修

- ・ 国際社会や地域社会における課題の発見と解決への取り組みを実践
- ・ 少人数編成のグループワーク

④ 海外実務体験：選抜

- ・ 派遣国：アメリカ、中国、フランスなど
- ・ 選抜に合格した GLEP 生が、休暇期間中に実施する自主企画の海外実務体験
- ・ 兵庫県海外事務所や現地企業、NPO、大学等で就業体験
- ・ 大学が参加費の一部を助成

⑤ 課外事業の企画・運営

- ・ GLEP 合宿や留学生との交流事業など、学生主体で就業体験

⑥ 英語自主学习

- ・ e-Learning 等を活用した英語の自主学习支援（希望者）



海外フィールドワーク「グローバルプロジェクト入門（海外）（ジンバブエ・ベトナム）」



学生グループ活動「グローバルプロジェクト演習」

国内フィールドワーク「日本の思想と文化を学ぶ」

4 カリキュラム、開講科目等

（1）修了要件及び称号の授与

GLEP では、国際コミュニケーション科目群 10 単位、リーダーシップ科目群 16 単位の合計 26 単位以上の修得、および英語外部試験での CEFR B2 レベル（英検準 1 級程度）のスコア獲得を修了要件として、「グローバルリーダー」の称号を授与します。

（2）国際コミュニケーション科目群

国際コミュニケーション科目群は、①実践的英語力、②専門分野における国際発信力、③第二外国語運用能力の獲得を到達目標としています。1 年次に修得する基礎科目 4 単位と主に 2-4 年次に修得する専門科目 6 単位の合計 10 単位からなります。1 年次に英語と第二外国語の基礎的な能力を身につけ、2 年次以降は自身が特に獲得したい能力に応じて、中級第二外国語や各学部の GLEP 専門指定科目から単位を修得します。

◎：必修、○：選択必修

区分	配当年次	国際コミュニケーション科目群	必要単位	国際 商経	社会 情報	看護	工	理	環境 人間
基礎	1	外国語 1 ※1)	4	1	◎				
		外国語 2 ※1)		1					
		英語実習		1					
		英語表現		1					
専門	1	グローバルヘルス	6	2		○			
	2	実践外国語 I		2	○	○			
		実践外国語 II		2	○	○			
		Japanese Culture		2	○	○			
		Japanese Society		2	○	○			
		English for Studying Abroad		2	○	○			
		English for Specific Purposes I		2	○				
		English for Specific Purposes II		2	○				
		Advanced Global Communication I		2	○				
		Advanced Global Communication II		2	○				
		Intercultural Communication		2		○			
		Health Care Communication		2			○		
		原書リーディング		1		○			
		上級リーディング		1		○			
		科学技術英語 1		1			○	○	
		科学技術英語 2		1			○	○	
		グローバルエンジニアリング		2			○		
		英語論文作成		2			○		
		英語科学問題演習		2				○	
		物質英語特別講義演習Ⅲ		1				○	
		生命英語特別講義演習Ⅲ		1				○	
		細胞生物学 3		2				○	
		グローバルサイエンス		2				○	
		イングリッシュ・スタディーズ		2					○
		英語表現論		2					○
		国際理解論		2					○
		クロス・カルチュラル・スタディーズ		2					○
		東アジア言語文化 I		2					○
		東アジア言語文化 II		2					○
		ヨーロッパ言語文化 I		2					○
		ヨーロッパ言語文化 II		2					○
		中級中国語 I		2	○	○	○	○	○
		中級ドイツ語 I		2	○	○	○	○	○
		中級中国語 II		2	○	○	○	○	○
		中級ドイツ語 II		2	○	○	○	○	○
	3	English for Specific Purposes I		2		○			
		English for Specific Purposes II		2		○			
		ケア文化論英語演習		2			○		
		実験英語		2				○	
		物質英語特別講義演習 I		1				○	
		生命英語特別講義演習 I		1				○	
		無機化学Ⅲ		2				○	
		物性論 I		2				○	
		生命科学演習 2		2				○	
		細胞生物学 6		2				○	
		グローバルスタディーズ		2					○
		英語文体論		2					○
		言語学		2					○
	4	World Nursing Issue		2		○			
		英文輪講(機械工学演習)(科学英語)		2			○		
		卒論英語		2			○		
		物質英語特別講義演習 II		1				○	
		生命英語特別講義演習 II		1				○	
		科学英語		1				○	

※1) 中国語 1, 2、韓国・朝鮮語 1, 2、ドイツ語 1, 2、フランス語 1, 2、スペイン語 1, 2（東地区のみ開講）、日本語・日本文化 1, 2（東地区のみ開講）より選択

(3) リーダーシップ科目群

リーダーシップ科目群は、①リーダーシップ、②課題発見・解決力、③グローバル教養の獲得を到達目標としています。1年次に修得する海外フィールドワークを含む基礎科目8単位と2-4年次に修得する専門科目8単位はいずれも必修科目で、合計16単位となります。基礎区分でグローバル教養やフィールドワークの基礎を身につけ、専門区分では学生のグループごとに発見した課題を解決するプロジェクトを企画・実施します。

なお、兵庫県内外でフィールドワークを行う「グローバルプロジェクト入門（国内）」は、土曜日または夏期休暇中に、2・3年次の「グローバルプロジェクト演習1・2」は毎月1回土曜日に、商科キャンパスを中心に開講されます（他キャンパスでの実施や、オンライン併用の場合あり）。GLEP修了には、時間調整と、ある程度の交通費の準備が必要となります。

区分	配当年次	リーダーシップ科目群	必要単位	国際 商経	社会 情報	看護	工	理	環境 人間
基礎	1	グローカルリーダー入門	8			◎			
		グローバル教養概論							
		グローバルプロジェクト入門(海外) ※3)							
		グローバルプロジェクト入門(国内) ※4)							
専門	2	グローバルプロジェクト演習 1A	8			◎			
		グローバルプロジェクト演習 1B							
	3	グローバルプロジェクト演習 2A							
		グローバルプロジェクト演習 2B							

※3) 1年次2-3月（推奨）または2年8-9月の履修となる。

※4) 「グローバル社会を学ぶ」「日本の思想と文化を学ぶ」「先端科学を学ぶ」より選択する。



グローバルな課題解決に向けた取り組みを学び、実際の現場を経験する

5 履修方法、問合せ先

- ① 定員：兵庫県立大学全学部の1年生50名程度（グローバルビジネスコースの学生は対象外となります）
- ② 募集時期：5月応募、5-6月選考、7月結果発表（予定）
- ③ 応募方法：提出書類、記入方法、提出先等の詳細は、5月上旬に兵庫県立大学HPに掲載予定
- ④ 履修方法：合格者のオリエンテーションで詳しい履修方法を説明
- ⑤ その他：
 - ・GLEP参加希望者は必ず1年次前期に「外国語1」「グローカルリーダー入門」、後期に「外国語2」を各自で履修登録すること。
 - ・9月下旬に1泊2日のGLEP合宿を実施予定。宿泊・食費約8千円（別途交通費）が必要
 - ・プログラム修了にかかる費用は原則、自己負担（一部助成金制度あり）。海外研修の自己負担額は派遣国により15-50万円程度。（2023年度研修を参考）
 - ・社会情勢等の影響により実施内容や経費等に変更が生じる可能性があります。

■ 問合せ先 国際商経学部 GLEP 担当

神戸商科キャンパス GLEP 事務局

TEL：078-794-6652 E-mail：global@ofc.u-hyogo.ac.jp

1 プログラムの目的・ねらい（ディプロマポリシー：DP1）

防災リーダー教育部門では、「**防災マインド**（防災への優れた知識と行動する心）」を持ち、地域や社会に貢献できる人材の育成を目指し、副専攻「防災リーダー教育プログラム」に位置づけて「防災教育」を推進しています。

この副専攻では、**減災復興学***に関する幅広い**知識**、学び考えたことや経験を仲間たちと共有し、自ら感じ、何ができるのかを考えながら、**現場力**を磨きます。さらに、**コミュニケーション能力**を高め、**実践力**を身につけます。その結果、社会に出たときに防災マインドを持って、冷静かつ的確に対応する**総合力（人間力）**を持った人材を育成します。

*減災復興学とは、「減災の総合化」という視点から減災と復興を一体的に捉えて、安全で安心できる社会の持続的発展を目指すための学問体系をいいます。また、この減災復興学に基づき「政策の現場化」において、現場から現場への政策的コミュニケーションを大切にし、研究や教育の社会的還元を目指します。減災復興政策研究科において、これら「減災の総合化」とあらゆる人々に届く「政策の現場化」を大切にするという考え方を科学的な視点から実践しています。



実践的な科目とフィールドワーク（防災実践講座、防災社会貢献ディベート大会、防災ゼミナール（少人数））

2 求める学生像

特別必要な基礎知識やスキルはありません。上記目的にあるような、減災復興学に関する知識を身につけたいと考えている意欲的な学生を求めます。学部4年間で身につけた主専攻の内容に加え、さらに減災復興政策研究科で引き続き研究活動をしたいと考えている学生を求めます。

3 プログラムの概要

次の表のように、減災復興学3領域（「災害科学」、「減災コミュニケーション」、「減災復興ガバナンス」）に関する基礎知識を学べる科目、座学の講義だけでなく、受講者が実践的に活動する「防災実践講座」を用意しています。さらに、市民救命士及び防災関連の資格である「防災士」の受験資格を得ることができる「防災リーダー育成講座」、少人数で減災復興学に関する卒業研究や地域防災活動に参画する「防災ゼミナール I・II」があります。

副専攻・防災リーダー教育プログラムの定員は1学年30人で、要件を満たす20単位以上を修得すると、卒業時に卒業証書に加え、副専攻【**防災リーダー**】の称号を附した修了証を授与します。

4 カリキュラム、開講科目等

開講される科目は、以下の表のとおりです。そのうち、**共通（基礎）教育科目**は、「**全学共通科目（県大特色科目「防災教育」）**」として卒業所要単位にカウントされます。また、本プログラムの専門教育科目は、基本的には学部の卒業所要単位にカウントされませんが、科目によっては、学部の専門教育（または、専門関連、専門基礎）科目として卒業所要単位に算入できるものがあります。専門教育科目のうち、【専門区分 D】は副専攻生必修の科目になります。詳しくは、下表の「備考」欄や所属する学部の規程などで確認してください。

学修成果の評価は、試験、レポート、参加度、発表内容、実技等により、学修目標に即して多面的な方法で行います。

《防災リーダー教育プログラム 開講科目一覧》

区 分	共通・専門	授業科目の名称	開 講 年 次	単 位	備 考
防災・減災 基礎	共通(基礎) 教育科目	地球の営みと災害☆	1～4	2	全学共通科目
		兵庫の歴史と自然災害史☆	1～4	2	全学共通科目
		生活と防災☆	1～4	2	全学共通科目
		社会特性と減災復興☆	1～4	2	全学共通科目
		災害支援とボランティア☆	1～4	2	全学共通科目
災害科学	専門教育科目 【専門区分 A】	地震津波と防災・減災※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目 理学部専門基礎科目
		自然災害と観光復興※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目
		気象・気候変動と災害※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目 理学部専門基礎科目
減災 コミュニケー ーション	専門教育科目 【専門区分 B】	防災教育とリスクコミュニケーション※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目
		災害と人と健康※	2～4	2	看護学部専門関連科目 I 環境人間学部専門教育科目
		防災実践講座※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目
減災復興ガ バナンス	専門教育科目 【専門区分 C】	まちづくりと減災復興※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目 社会情報科学部専門科目
		災害リスクマネジメント※ (企業防災 (BCP) 論) ※	2～4	2	看護学部専門関連科目 I 環境人間学部専門教育科目 国際商経学部専門教育科目
		減災復興政策概論※	2～4	2	環境人間学部専門教育科目 社会情報科学部専門科目
フィールド ワーク等	専門教育科目 【専門区分 D】	防災リーダー育成講座※◇	2～4	2	
		防災ゼミナール I ※	2～4	2	少人数ゼミ型*と地域防災活動 参画型があります。
		防災ゼミナール II ※	2～4	2	少人数ゼミ型*と地域防災活動 参画型があります。

(注) ☆は、神戸商科キャンパスで対面式、姫路工学 C (書写) へはオンライン配信します。※は、神戸防災キャンパス (HAT 神戸) 内の防災リーダー教育部門で、土曜日 (前・後期各 2 部制) もしくは夏季集中の講義として開講します。【専門区分 D】の 3 科目は 2 年次から 4 年次まで受講可能です。◇は、防災士の資格取得のための講義となります。資格取得のための教材費、受験料、認証登録料は自費となります。*少人数ゼミ型は減災復興政策研究科への進学を視野に入れた副専攻ゼミです。

《防災リーダー教育プログラムの修了要件と称号》

授与される 称号	内 容	定 員	修了認定要件
防災 リーダー	防災リーダーとしての知識や災害現場などでの実践力・コミュニケーション力が身につく	1 学年 30 人	<u>20 単位（10 科目）以上</u> ただし、 ＊共通（基礎）教育科目から 1 科目以上必修 ＊【専門区分 A～C】それぞれ最低 1 科目必修 ＊【専門区分 D】のすべての科目必修

《防災リーダー教育プログラムのカリキュラムマップ》

	災害科学	減災コミュニケーション	減災復興ガバナンス	フィールドワーク等
防災リーダー教育プログラム [専門科目] 2～4 年次	地震津波と防災・減災	防災教育とリスクコミュニケーション	まちづくりと減災復興	防災リーダー育成講座
	自然災害と観光復興	災害と人と健康	災害リスクマネジメント	防災ゼミナールⅠ
	気象・気候変動と災害	防災実践講座	減災復興政策概論	防災ゼミナールⅡ

自然科学的学び



社会科学的学び

コミュニケーションスキル
プレゼンテーションスキル

プログラム登録 1 年次



全学共通教育科目 防災リーダー教育プログラム [基礎科目] 1～4 年次	地球の営みと災害	生活と防災	社会特性と減災復興
	兵庫の歴史と自然災害史	災害支援とボランティア	

5 履修方法、問合わせ先

防災リーダー教育プログラムの専攻生になるには、申請・登録が必要です。登録申請は、1 年次の前期 5 月頃及び後期 12 月頃の 2 回に分けて、「ユニバーサルパスポート」（WEB）で行います。神戸商科キャンパスや姫路工学キャンパスの掲示板や防災リーダー教育プログラムの基礎科目の講義中に案内しますので、注意しておいてください。また、専攻生の希望者が定員を大きく超えた場合、選抜を行うことがあります。

【注意事項】

科目によっては、交通費や参加費などの諸経費が必要な場合があります。



【問い合わせ先】

神戸防災キャンパス内 防災リーダー教育部門 副部門長：教授 浦川 豪

TEL：078-271-3290 代表メール：gensai@ofc.u-hyogo.ac.jp

「兵庫県立大学神戸防災キャンパス」

HAT 神戸（神戸東部新都心）の「人と防災未来センター」東館 4 階および 6 階にあります。

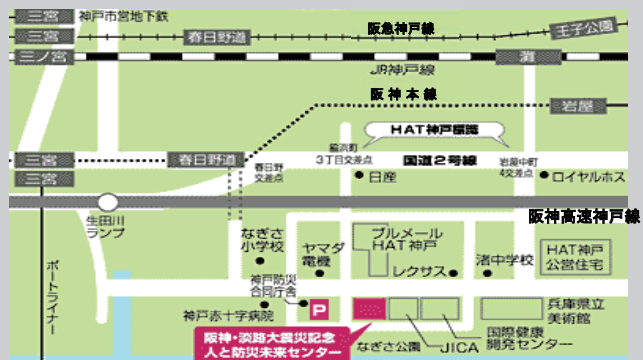
所在地：〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2

事務室 電話：078-271-3290 FAX：078-271-2702

アクセス：【電 車】阪神電車「岩屋」駅・「春日野道」駅から南へ徒歩約 10 分、J R「灘」駅から南へ徒歩約 15 分、阪急電車「王子公園」駅から南へ徒歩約 20 分

【バ ス】三宮駅前から約 20 分（神戸市営バス・阪神バス）

※ 公共交通機関を利用してください（無料の駐車場はありません）。



阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

兵庫県立大学副専攻規程

(趣旨)

第1条 この規程は、兵庫県立大学学則（平成25年法人規程第75号）第10条の2の規定に基づき、副専攻に関し必要な事項を定めるものとする。

(副専攻名等)

第2条 副専攻は、兵庫県立大学全学部共通とし、高等教育推進機構が設置する。

2 副専攻名、運営部門及び主たる担当学部等は別表第1のとおりとする。

3 副専攻における授与称号は別表第2のとおりとする。

4 各副専攻の運営に関し、必要な事項は別に定める。

(履修方法等)

第3条 副専攻の履修に係る申請方法、授業科目の種類及び取得しなければならない単位数等は、別に定める。

(修了認定)

第4条 副専攻の修了認定は、運営機関に置くその運営を審議する会議の議を経て、高等教育推進機構長が行う。

(修了証書の授与)

第5条 学長は、前条により副専攻を修了したと認定された学生に対し、副専攻修了証書を授与する。

2 前項により授与する副専攻修了証書は、様式第1号のとおりとする。

(委任)

第6条 この規程に定めるもののほか、副専攻の履修に関し必要な事項は、高等教育推進機構長が定める。

附 則

この規程は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年3月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

別表第 1

副専攻名	運営部門	主たる担当学部等
地域創生リーダー教育プログラム	地域創生リーダー教育部門	環境人間学部
グローバルリーダー教育プログラム	グローバルリーダー教育部門	国際商経学部
防災リーダー教育プログラム	防災リーダー教育部門	減災復興政策研究科

別表第 2

副専攻名	授与称号
五国豊穰プログラム	ひょうご学志
地域創生リーダー教育プログラム	ひょうご学志又は コミュニティ・プランナーアソシエイト
グローバルリーダー教育プログラム	グローバルリーダー
防災リーダー教育プログラム	防災リーダー

様式第 1 号

兵庫県立大学 副専攻修了証 第〇〇〇〇〇〇〇〇号 氏 名 学籍番号 本学が実施する副専攻「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」を修了したことを認め、「〇〇〇〇〇〇〇〇」の称号を授与する 年 月 日 兵庫県立大学 大学 の印
--

